

寂聴記念会だより

題字 島田聖翠

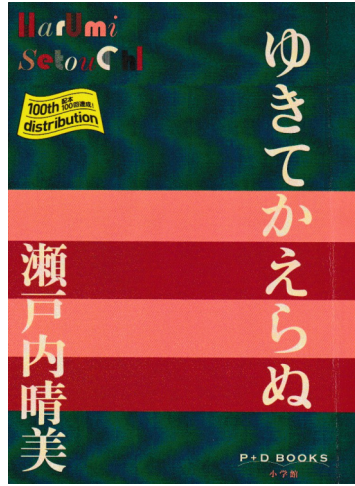
みなさま、明けましておめでとうござ
います。ますます国際情勢が厳しくなる
中いち早い和平を祈らずにはおられませ
ん。

被団協がノーベル平和賞を受賞し、核
廃絶の出発点でもあると、原爆被害者で
ある代表委員の方はノルウェーでの演説
で語っておられました。

11月には寂聴忌イベントと石山寺ツア
ーを無事終えることができました。参加し
てくださったみなさんに感謝いたします。

「寂聴文学を愉しむ会」 II

今年も引き続き「寂聴文学を愉しむ
会」を年間5回、開催します。昨年度
は『白い手袋の記憶』から短編を読み



意志。実行。
私は私を生きる。
過酷な境遇に育ち、獄中で自ら死した
23年の鮮烈な生涯を描く、不朽の伝記小説

ました。今年度は『ゆきてかえらぬ』
(小学館・650円) から4編と、浜
野佐知監督の映画「金子文子 何が私
をこうさせたか」の上映を前に瀬戸内
寂聴作『余白の春』を読みます。
原則として14時から文学書道館2階
でおこないます。

参加希望者は準備の都合があります
ので、事務局までご連絡ください。参
加できる回のみのお出席も可。

第1回 4月18日(金)

「余白の春」を読む

担当 竹内紀子

第2回 6月20日(金)

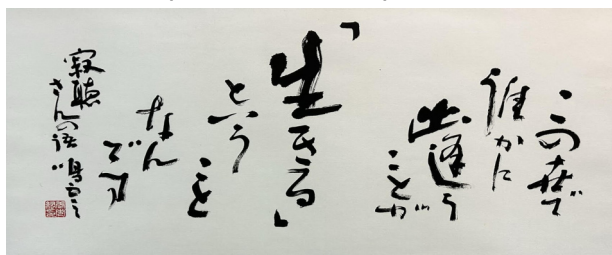
「ゆきてかえらぬ」を読む

担当 大石征也

第3回 10月17日(金)

第5号
2025年
1月15日発行
瀬戸内寂聴
記念会

寂聴の言葉
武市鳴雲書



「三鷹下連雀」を
読む

担当 竹内紀子

第4回 12月19日

(金)

「霧の花 夢二」

を読む

担当 大石征也

第5回 2月20日

(金)

「鴛鴦」を読む

担当 竹内紀子

行事報告

10月12日 「山桜」朗読会

吉野川市文化研修センターで11日か
ら15日まで武市鳴雲書展「瀬戸内寂聴
の言葉を書く」が開催され、その作品
の前で寂聴作品を朗読しました。

「いずこより」「夏の終り」「場所」

「寂聴巡礼」の一部を記念会の朗読グ
ループ「山桜」(斎藤礼子・竹内紀子・

藤村純子・森裕子)が一時間ほど朗読

し、100人近い入場者が聞いてくだ

さいました。



「山桜」朗読会

武市氏は2
012年に文
学書道館で偶
然、寂聴さん
と話したこと
から、寂聴さ
んの記事を熱
心にスクラッ
プされ、言葉
を抜き出し、
書作品を仕上
げました。堂々
とした大作か
ら色紙に至る
まで40点を展
示し、たくさ
んの方に見て
いただきました。



行事報告

11月9日

寂聴忌セレモニー

文化勲章受章記念碑「ICCHORA」と生誕100年記念碑のある新町川水際公園でセレモニーをおこないました。初めに東條会長が「寂聴さんへの手紙」を読み、14名の参加者で『場所』より「眉山」の一節を輪読し、寂聴作詞「ふるさと賛歌」を合唱しました。

「寂聴さんへの手紙」

あれから3年の月日が過ぎました。瀬戸内寂聴記念会の機関誌「寂聴」が多くの方々の賛助と投稿を得て、本日11月9日、第3号発行のはこびとなりました。

読書会や講演会、朗読の会のあれこれも楽しく続いています。インターネットサイトに続いて、ホームページも始まりました。

先日83歳当時の先生が、世阿弥の足取りを追って佐渡島を訪れ、薪能をご覧になるテレビ番組の再放送を見ました。燃える薪が照らす島の夜の神社の能舞台で世阿弥の「羽衣」を堪能して、先生は「一瞬かもしれないけれど本当の平和を感じた、こういうことのできる、見られるということが平和ということではないか」と、話されていました。能の本質は、平和への祈りだとも聞きます。

11月9日は、戦争にいい戦争も悪い戦争もないと、繰り返して語った先生の思いを、心に刻む日でもあります。私たちの拙い歩みを、どうか先生、どこかで見ていてください。

2024年11月9日

会長 東條眞理子



寂聴忌 セレモニー風景
新町川 ICCHORA前



ふるさと賛歌 詞 瀬戸内寂聴

ふるさと徳島 ま青の空よ
眉山はやさしく 永久の緑に
心はいやされ 喜びみちて
つどうはらから なつかしの友
恋しき想い出 夢もゆたかに
歌えよわれらが 生きるよろこび

2012年の国民文化祭総合ワエスティバル（10月28日）で披露された。メロディーはベートーヴェン作曲の「歓喜の歌」。

11月9日

機関誌「寂聴」第3号発行

寂聴



表紙の手紙は、寂聴さんが机を作ってくれた笹倉さんに宛てたもの。納品してくれた時に留守にしていた、その素晴らしさをスタッフから聞き、すぐに東京からしたためた感謝の手紙です。文化勲章受章直後の喜びと師走の慌ただしさも伝わってきます。

11月9日 寂聴忌句会



機関誌「寂聴」発行記者会見

右から東條会長、竹内事務局長、大石副会長が出席。第3号の特徴や機関誌が活動の中心であることを語った。

午前中の寂聴忌セレモニー終了後、午後より文学書道館にて、昨年同様、寂聴忌句会を開催しました。「いい句作ろう寂聴忌」を合い言葉に、14名が参加し、24句が集まりました。

通常の句会とは違い、俳句経験の無い方も参加してくれました。俳句を鑑賞しながら、寂聴さんの作品を語り、寂聴さんとの思い出を語る、とても楽しい句会となりました。参加者が選んだ句を紹介します。

恋いづれなつかしくなる寂聴忌

幻太

寂庵の門は閉ざされ秋時雨

薫

蓮咲くや吐蕃王妃の白き指

純子

スーツ着て落葉集める寂聴忌

康代

寂聴忌この世に戦火やまざるに

征也

望郷歌川面揺らして寂聴忌

純子

寂しさを聴く一本の吾亦紅

初夏



寂聴忌句会

石山の月を見たしよ寂聴と
想定外老後のわたし寂聴忌
女人源氏のかたる心や寂聴忌
寂聴忌眉山やさしき山なれど
輪読の声音やさしき寂聴忌
寂聴忌の恋と革命花野ゆき
春雷や小走り常に小さき足
歳時記を初めて手に入れ寂聴忌
眉山背に第九合唱寂聴忌
暑ささえさらに不安な寂聴忌
御山の階長し五月晴
女性大統領生まれず悲し寂聴忌

紀子 環 裕子 幻太 初夏 薫 眞理子 康代 理香 眞理子 征也

11月25日 石山寺ツアー

晴天のこの日、総勢30人で観光バスを仕立てて、滋賀県大津市の石山寺に向かいました。

大河ドラマもクライマックスにさしかかり、紅葉が見事で境内は多くの人ででした。

「光る君へ」の内容を紹介し、十二単の衣装なども展示している大河ドラマ館のほかに、豊浄殿では「紫式部とほとけの道」が開催され、伝説の硯や土佐光起作「紫式部図」が修復後初公開されていました。昼食会場には座主の龍華さん、副座主の龍妙さんがあいさつに来てくださいました。

この日は徳島県内の「蜂須賀桜と武家屋敷の会」、「武者小路 雪月花の会」が蜂須賀桜を記念植樹するセレモニーがあり、記念会からも会長はじめ4人が参列しました。

春に先がけて咲く蜂須賀桜は、200年も花が咲くとのこと、その生命力や200年後の世界に参加者たちは想いをはせたそうです。

理事の清重さんの感想を掲載します。

石山寺に詣でて

清重康代

石山寺の名前を知ったのは40年ほど前のこと。当時、私は瀬戸内寂聴さんが主宰する寂聴塾の塾生だった。同じ塾生の鷺尾（能仁）博子さんが嫁いでいくことになったお寺が石山寺だった。滋賀県大津市にある古刹で紫式部がお籠りして源

氏物語の着想を得たというお寺だと知り親近感を持ったのを覚えている。でも行く機会はないままだった。

3年前に立ち上げた瀬戸内寂聴記念会の会員の皆さんの何人かは石山寺へ行ったことがあるのだと知り、私もぜひ行ってみようと思った。

3月に9人で下見に行き、11月に観光バスでの石山寺ツアーが実現した。という事で私は念願だった石山寺行きを2回体験できたことになる。

境内は途方もなく広く、斜面の昇り降りが結構大変だが、古く由緒ある建造物に感嘆の溜息をつきながら歩くと割と歩いてしまう。平安時代の貴族も石山寺詣でをしたと聞くと魅力的でまた行きたいと思える不思議な場所だと思った。

3月の下見の日にはお色直し（修復？）に出ていた紫式部のお人形が帰って来ている。



スピーチする
東條眞理子会長

ろつが

第52世
鷺尾遍
隆座主
と博子
さんと
のご縁はそんなところにも
あったのでは
と思うのは私
だけだ

蜂須賀桜の記念植樹 →



た。お顔が第53世座主の鷺尾龍華さんと副座主の鷺尾博子さんに似ている。

行事報告

11月4日 寂聴忌朗読会
『女人源氏物語』を読む

『女人源氏物語』は「源氏物語」に登場する女性たちが口を開いたら、どんなことを言うだろうかという発想のもとに書かれた寂聴さんの小説です。「本の窓」という雑誌に62歳から連載し、全5巻となつて刊行され、現在も文庫で出ています。

人間関係もわかりやすく書かれ、寂聴さんが「源氏物語」を読んで想像したことが書き尽くされた、紫式部との合作といつてもいい作品です。登場人物の心理がきめこまやかに描写され、「源氏物語」の副読本といつていい存在です。

寂聴忌朗読会

寂聴著『女人源氏物語』を読む

2024年 **11**月**4**日(月・休)

シビックセンター
4F さくらホール
(13時開場)
13時30分開演
入場無料

解説 竹内紀子

1. 桐壺更衣のかたる	森 裕子
2. 葵上のかたる	岡田加代子
3. 藤壺のかたる	藤村純子
4. 女三の宮のかたる	森本文代
5. 紫上のかたる	斎藤礼子

主催：瀬戸内寂聴記念会
お問合わせ：斎藤 (0885-32-6685)



「女人源氏物語」出演者とスタッフ

ひろば 会員のたより
石川光さん(群馬県在住)より

晴美時代から、先生は自我に目覚めた女性の尊い伝記や評伝を発表されている。お付き合いたいただいた晴美時代、わたし、在東京の何をやってもアカン時代、若さとか書ききただけの時間を持て余してもいた。

そんな時、神保町の今は淋しくなつた書店街、グラビアの文学賞受賞の写真！先生にお目にかかつたのだつた。誰も書かなかつた、エロスの香り！それは「女子大生・曲愛玲」1957年、新潮社同人雑誌賞！うわっ！同じ徳島出身だ！お会いしたい！

お願いをして、出入りが許されたけど、秘書としても、お手伝いとしても役に立たず、ようやく知的な小説！「夏の終り」女流文学賞受賞のモデル涼太さんの会社に、先生の紹介で就職できたのだつた。(中略)

四国、わが故郷、うだつの脇町で、皆様のお力添えをいただきつつ、わが「家族展」を行つた。その折、畏れながら瀬戸内寂聴先生より、次のような身に余る尊いお便りをいただいた。誠にありがたいことだつた。

「今、鳴門のサンガにいます。実に何十年ぶりかで阿波で新年を迎えます。いつも気にして案じています。ヘンな遠慮をしないでどこでも声をかけてください。あなたらしくもなく他人行儀で不思議です。身内の展覧会、すばらしいですね。」

寂聴のことば

平和で、幸福で、うれしい、そんな生活の中から生れる文学を、私は、今、何だか信用できないでいる。健康で、快適で、平均と調和のとれた生活の中から生れる芸術を、私は今、信用できない気がしている。

芸術とは、文学とは、しよせんは、人間の、心の傷口から流れる血をインクに、描くものではないだろうか。

「ただひとつの道」『見知らぬ人へ』より
(竹内紀子)

どうかなんでも役立つものがあれば使ってください。ご盛會を祈ります。

鳴門にて 瀬戸内寂聴
2009年12月30日
(初出「高越山」第17号)

お知らせ

徳島県立文学書道館
瀬戸内寂聴記念室

中央展示
「寂聴と俳句」

2025年1月から12月末まで、句集『ひとり』と『定命』を中心に、句稿や書簡、俳句とかかわりや交流のあつた人々とのエピソードや写真が紹介されます。

瀬戸内寂聴記念会 事務局
〒770-0856 徳島市中洲町3-40-802
Fax 088-661-3292
email kikanshi@setouchijakucho.com